

京都大学土木会研修助成 成果報告書

京都大学工学部地球工学科土木工学コース 3回 坂下友暉

私は2024年9月2日から2024年9月13日にかけて、3回生配当科目である"International Internship"の現地実習として、インドネシア・ジャカルタで実施中のプロジェクトである"Jakarta Sewage Development Project (Zone 1, Package 1)"の下水処理場新設工事現場での実習に参加した。現地では、設計、施工管理、品質管理、安全管理、契約管理、事務業務等のゼネコン業務全般について各部署の日本人、インドネシア人職員の方々に解説していただきながら学習した。また、Pneumatic Caisson 工法、Sand Compaction Pile 工法、下水処理におけるA2O、MBR法について、その工法、技術の詳細についても学習したほか、コンクリートの製造現場や鉄筋工場、第三者機関の試験施設の見学も行った。また、当該プロジェクト以外にも、実習先企業竣工のプロジェクトであるJakarta MRT North-South Line Phase 1プロジェクトについて、MRTプロジェクト所長によるプロジェクトの概要、及びそのプロジェクトの施工に用いられた技術や当時の様子についての講義を聴講し、施工場所の視察、MRTの試乗も行った。

私は、将来、海外事業を扱う土木業界の企業への就職を考えているが、今まで海外の現場はもちろん、土木業界の企業の業務内容について詳しく知る機会がなかった。今回の実習では、様々な部署の方のお話を伺うことでゼネコンの業務内容や、国内と比較した海外の現場の特徴について深く学ぶことができた。また、現地に駐在している職員の方から、日々の生活の様子を伺ったり、実際に市内を案内していただいたりしたことで、海外に駐在して働くことに対する具体的なイメージを持つことができた。加えて、今回の実習は英語でのコミュニケーション力を養う良い機会であったと考えている。現地の職員の方の大半はインドネシア人の職員の方であったために、英語で講義や現場の説明を受けたり、質問等のやり取りをする機会が多くあった。また、学習成果について英語で発表する機会も得た。実習中は、しばしば言葉に詰まり、自分の英語力のなさを実感する場面もあった一方で、土木工学に関連する英語を身につけ、積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢があれば、英語力を理由に、海外業務に関わることを諦める必要はないようにも感じた。

2週間の実習を通して、大学で学習した土木工学の学びを深化させることができただけでなく、土木工学分野の技術者として、海外で活躍できる人間になりたいという思いがより強くなるとともに、土木工学を学び、土木工学分野から社会に貢献する意義について改めて実感させられ、学びの多い、濃密な2週間となったと考えている。今後は、国内外に広い視野を持ちつつ、土木工学分野の学習を継続し、専門知識を身につけるとともに、外国語の学習を継続して行っていきたい。

末筆ながら、本研修に対して助成をしてくださった京都大学土木会、並びに会員の皆様に深く感謝申し上げます。